

河川堤防の液状化対策の手引き（平成 29 年 8 月）正誤表

印刷版からの修正点

位置	正	誤
目次		5.4.3 以降のページ番号のずれ
P135 2 行目	128.0(kN/m ²)	128.0(<u>kN</u>)
P164 図 7.4.2 P165 上から 2 行目	dc=3.0 $r_{\text{umax}} = 1 - 0.060 \cdot (5.0 / 3.0) = 0.900$ α_1 は、 $r_{\text{uB}} \cdot r_{\text{umax}}$ のいずれか小さい方を取り、以下ようになる。 $\alpha_1 = r_{\text{uB}} = 0.000$ ($\leq r_{\text{umax}} = 0.900$)	<u>dc=2.5</u> $r_{\text{umax}} = 1 - 0.060 \cdot (5.0 / \underline{2.5}) = \underline{0.880}$ α_1 は、 $r_{\text{uB}} \cdot r_{\text{umax}}$ のいずれか小さい方を取り、以下ようになる。 $\alpha_1 = r_{\text{uB}} = 0.000$ ($\leq r_{\text{umax}} = \underline{0.880}$)
	Ver.170804	<u>Ver.標記もれ</u>

Ver. 20160901 から印刷版までの正誤表／修正内容

位置	正／修正内容	誤
P69 下から 3 行目	改良幅：4.0m 以降、計算値の修正	改良幅： <u>4.8m</u>
P70 P117 5 段落目	検討用モデルの壁厚についての留意点を追記	—
P72 表 5.4.2 P119 表 6.4.2 4 段落目	改良地盤の上面に載る盛土の慣性力の算出に用いる深度方向の低減係数について、改良体底面深度を用いた値に修正 $= W_E \cdot k_h \cdot a_{\text{ds}} \cdot (1 - 0.03 \cdot H_l)$ $= 108.0 \times 0.18 \times 0.3 \times (1 - 0.03 \times 6.0) = 4.8$	$= W_E \cdot k_h \cdot a_{\text{ds}} \cdot (1 - 0.03 \cdot H_l)$ $= 129.6 \times 0.18 \times 0.3 \times (1 - 0.03 \times \underline{1.5}) = 6.683$
P72 表 5.4.2 P119 表 6.4.2 備考欄	・改良体の単位体積重量の設定の留意点について追記 ・改良地盤上面に載る盛土の慣性力の算定における留意点を追記	—
P73 中央 から P75	FEM 解析を用いて盛土による荷重を算定する方法を追記	—
P76 表 5.4.5	受働側 F_L 値 上層砂質土層 平均 $F_L = 0.813$ 下層砂質土層 平均 $F_L = 1.168$	受働側 F_L 値 上層砂質土層 平均 $F_L = \underline{0.821}$ 下層砂質土層 平均 $F_L = \underline{1.175}$

	以降、計算値の修正	
P77 P122 6行目	受働側の土圧係数の算定に用いる壁面摩擦角は $\delta=0^\circ$ として適用することを追記 以降、計算値の修正	—
P88 表 5.4.15	支持力係数の寸法効果に関する補正係数 $Sr= 1.00$ 以降、計算値の修正	$Sr=\underline{0.81}$
P92 表 5.4.16	表中右端列、照査地点の P_{0h} の深度区間を修正 $P_{0h (1.5\sim 5.0m)} =133.0$ $P_{0h (1.5\sim 6.0m)} =202.8$	$P_{0h (0\sim 5.0m)} =\underline{143.1}$ $P_{0h (0\sim 6.0m)} =\underline{212.9}$
P93 P140 a)	H_{Tz} 式の修正及び改良地盤の慣性力の低減に用いる深度について、改良体底面深度に修正。以降、計算値の修正 $H_{Tz} = W_z \times k_{hrz} = 0.8 \times 3.5 \times 18.0 \times 0.054 \times (1 - 0.03 \times 6.0) = 2.0$	$H_{Tz} = W_z \times k_{hrz} = 0.8 \times \underline{1.6} \times 3.5 \times 0.054 \times (1 - 0.03 \times \underline{5.0}) = 2.0$
P93 P139 b)	H_{Tz} 式の修正 $H_{Tz} = W_z \times k_{hrz} = 0.8 \times 4.5 \times 18.0 \times 0.054 \times (1 - 0.03 \times 6.0) = 2.9$	$H_{Tz} = W_z \times k_{hrz} = 0.8 \times \underline{1.6} \times \underline{4.5} \times 0.054 \times (1 - 0.03 \times 6.0) = 0.3$
P95 P142 5行目	$Q_{Vx} = q \times x$	$Q_{Vx} = q \times x \times \underline{a_p}$
P95 P142 下から 4 行目	検討する断面における鉛直せん断力の式の修正 改良地盤の受働側に作用する土水圧合力の鉛直成分 P_{Pv} の細分表示	-
P98 表 5.4.19	・ 対策工諸元の設計における改良諸元概要図の修正 ・ 耐震性能照査における対策工諸元の修正 堤体下部改良幅 0.0m \Rightarrow 3.0m 堤体外改良幅 4.0 m \Rightarrow 1.0 m	堤体下部改良幅 0.0m \Rightarrow <u>1.5</u> m 堤体外改良幅 4.8 m \Rightarrow <u>3.3</u> m
P135 表 6.4.14	支持力係数の寸法効果に関する補正係数 $Sc = 0.57$ $Sq = 0.46$ $Sr = 0.51$ 以降、計算値の修正	$Sc = \underline{1.0}$ $Sq = \underline{1.0}$ $Sr = \underline{1.0}$
P175 図 7.4.5	透水性矢板適用時の透水係数の設定方法イメージ図を追加	
P177 ~P179	7.4.4 対策工諸元設定震度における液状化層がない場合の設計方法の項を追加	
P228 , P229	鉛直の局所動水勾配の照査を削除	

全体	誤字の修正 図・表を見やすく修正	
全体	わかりにくい説明を修正	
全体	図表の修正等に伴う値の修正及び変更	